

熊野灘深海から本邦初記録の新種のおニナナフシを発見

概要

奥村由純 理学研究科修士課程学生、中野智之 フィールド科学教育研究センター准教授、下村通誉 同教授の共同研究グループは、三重県熊野灘の海底において、カンカイオニナナフシ科 *Litarcturus* 属の不明種を発見しました。形態形質を詳細に精査した結果、頭部に2本の長い眼上棘があること、体全体の棘は第1触角の第2柄節と第3柄節の長さがほぼ同じであること、尾節の棘が比較的短いことなどの形質から、本種は未記載種である事が判明し、採集場所である熊野灘にちなんで、*Litarcturus kumanoensis* (和名：クマノオニナナフシ) として新種記載しました。カンカイオニナナフシ科 *Litarcturus* 属は本邦初記録です。

本成果は、2026年6月24日に国際学術誌「*Zootaxa*」にオンライン掲載されました。



新種のクマノオニナナフシ *Litarcturus kumanoensis* (撮影者：奥村由純)

1. 背景 オニナナフシは、身近な公園にいるオカダンゴムシや水族館でおなじみのダイオウグソクムシを含む等脚類の仲間です。海洋に漂う有機物を前脚にある長い刺毛でからめとり、それらを食べて栄養を得ているとされています。現在、カンカイオニナナフシ科は世界で 17 属 105 種が知られており、そのほとんどは南極や北極周辺などの寒い地域の深海に生息しています。日本沿岸のカンカイオニナナフシ科はこれまでに 1 種しか知られておらず、国内での分類学的研究は進んでいませんでした。

2. 研究手法・成果

2023 年に三重県熊野灘の水深 765-768 m から等脚類カンカイオニナナフシ科の 1 種を発見しました。解剖的な形質の精査の結果、頭部に 2 本の長い眼上棘があること、体全体の棘は第 1 触角の第 2 柄節と第 3 柄節の長さがほぼ同じであること、尾節の棘が比較的短いことなどの形質から、既存の *Litarcturus* 属の一種と判別しました。本種は、採集場所の熊野灘にちなみ、クマノオニナナフシ *Litarcturus kumanoensis* と命名しました。

3. 波及効果、今後の予定

Litarcturus 属のほとんどが、南半球に生息しています。今回記載したクマノオニナナフシは北太平洋の熊野灘で発見されましたが、実際にどのような地理的分布を持っているかは不明です。また、カンカイオニナナフシ科は水深が深いところに生息する種が多いです。そのため、エビやカニなどの甲殻類より細く、壊れやすいため、これまでの調査で見落とされていた可能性があり、種多様性が過小評価されていると考えられます。今後も日本沿岸での乗船調査により、これまで未解明であったカンカイオニナナフシ科の種多様性を解き明かしていきたいです。

本研究は、三重大学練習船勢水丸の乗組員および京都大学内外の教員・技術職員・学生の皆様の協力のもと実施されました。心より感謝申し上げます。

<研究者のコメント>

いろいろな方々の協力もあり、初めて「種の記載」を行うことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。また、深海にこんなにユニークで愛らしい生き物がいることを多くの人たちに知ってもらえたらうれしいです。(奥村由純)

<論文タイトルと著者>

タイトル A new species of *Litarcturus* Brandt, 1990 (Crustacea: Isopoda: Valvifera: Antarcturidae) from central Japan

著者 Yuzumi Okumura, Tomoyuki Nakano and Michitaka Shimomura

掲載誌 *Zootaxa*

DOI <https://doi.org/10.11646/zootaxa.5837.3.7>